令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人信州大学

１ 全体評価

信州大学は、山々に囲まれた自然環境及び信州の歴史・文化・伝統を大切に、総合大学として世界に通じる教育研究を行い、自ら創造できる人材の育成、独創的研究の学際的推進、地域・社会の発展に貢献することを目指している。第３期中期目標期間においては、先鋭領域融合研究群を中心に世界的な教育研究を行い、多分野にわたる全国的な教育研究拠点としての活動を行うとともに、地域に分散するキャンパスの強みを生かし、地域活性化の中核拠点となること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、学術研究・産学官連携推進機構に信州大学と企業等との大型共同研究の推進及びその運営支援体制の強化を図ることを目的とした共創研究クラスターを置き、外部機関との「組織」対「組織」による価値共創型の共同研究の推進、研究成果の産業界への活用促進及び高度人材育成を推進していくための体制を整備するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第３期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

○　人口減少時代に適応した弾力性（レジリエンス）のある社会システムの実現は、日本だけでなく世界でも重要視されていることから、地域デザイン部門において、現在の地域課題としていかに人口を維持し、災害のリスクも少なくできるかという観点から、近年注目されている地域デザインやグリーンインフラに関する研究を進めている。（ユニット「先鋭研究領域の融合と頭脳循環による世界水準の国際教育研究拠点の形成」に関する取組）

○　小型ロケット開発をモチーフとした地域企業の技術の高度化と人材育成を目的にSUWA小型ロケットプロジェクトを推進し、小型ロケット試作に関わる様々な要素技術を諏訪圏企業、JAXA宇宙科学研究所、産業技術総合研究所と連携して技術開発し、試作ロケットに実装し、打上げ実験（計５回）によって技術実証している。（ユニット「先鋭研究領域の融合と頭脳循環による世界水準の国際教育研究拠点の形成」に関する取組）

2 項目別評価

＜評価結果の概況＞	特　筆	一定の注目事項	順　調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
（１）業務運営の改善及び効率化			○			
（２）財務内容の改善			○			
（３）自己点検・評価及び情報提供			○			
（４）その他業務運営			○			

Ⅰ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善　②教育研究組織の見直し　③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 事務職員を対象とした経営企画力向上の取組

副課長級以上を対象とした経営企画力向上研修について、大学業務全般の知識を養い経営企画能力の基礎を身に付けさせるために、新たに主査級以下の研修体系にも組み入れて、令和元年度においては「淘汰の時代に突入した中で大学職員が果たすべき役割」をテーマとした講演、WBS（Work Breakdown Structure）を用いた業務マネジメントの手法についてのグループワークを実施している。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について**課題**がある。

○ 入学者選抜における出題ミス

学部の令和２年度一般入試における出題ミスが発生したことにより追加合格の措置を実施していることから、チェック体制の見直し等、再発防止に向けた組織的な取組を実施することが望まれる。

（２）財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加　②経費の抑制　③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載７事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実　②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載６事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等　②安全管理　③法令遵守等

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
（理由）　年度計画の記載13事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 環境マインド実践人材養成コースの開講

全学横断特別教育プログラムの運営管理体制の下で、環境分野の幅広い課題の基礎知識を身に付け、特に国際社会の共通の目標であるSDGsや持続可能な循環共生型の社会構築を意識して、課題を解決できる人材を育成することを目的とした環境マインド実践人材養成コースを開講し、36名が登録している。

○ 信州大学・長野県連携室の設置

長野県との強固な連携体制を築き、特定の分野に限定することなく、教育・研究・社会連携・医療等の発展を目的として、令和元年11月１日付で信州大学・長野県連携室に関する覚書を締結し、長野県庁内に「信州大学・長野県連携室」を設置している。これにより、長野県庁との組織対組織の連携を強化する体制を整え、台風災害のデジタルアーカイブ、御嶽山ビジターセンターの設置やワールドワイドラーニング事業に係る高大連携事業等を行っている。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 臨床研究・治験の支援体制の強化

病院が主幹となって実施する初めての医師主導治験であり、ヒト投与試験の面においても病院初となる高度な治験「FIH（ヒト初回投与試験）医師主導治験：悪性黒色腫患者を対象としたインターロイキン12発現型遺伝子組換え単純ヘルペスウイルス１型の第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験」の支援を実施するなど、各研究者が迅速かつ適切に臨床研究を実施できるよう、臨床研究・治験の支援体制が強化されている。

（診療面）

○ 専門的ながん医療の提供

がんゲノム医療のより一層の推進を目指し、がんゲノム医療拠点病院に申請、指定を受けるとともに、小児がん又は造血幹細胞移植医療を受けた小児期から青年期における患者を対象とした、長期フォローアップ外来を継続し、令和元年８月からは、小児がん既往者に対して、２次発がんのリスク評価に関するゲノム解析を行う「HOPEFUL」外来を開始するなど、がん診療の体制を強化している。

（運営面）

○ 県内の地域がん診療連携拠点病院との連携

長野県内のがん診療連携拠点病院で行っている院内がん登録を附属病院に集約し、それに基づき分析した長野県のがんの特徴を、日本がん登録協議会において発表するなど、地域のがん医療に貢献している。